

ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2011年4月～2012年3月

国名：日本

※今年度の年次報告書は担当者の名前やメールアドレスなどは伏せた形で冊子やHP上で公表する可能性があります。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 担当者

—

2. 学校概要

学校名 渋谷教育学園幕張中学校・高等学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒261-0014

千葉県千葉市美浜区若葉1丁目3番地

E-mail : kokusai@shibumaku.jp

Website : http://www.shibumaku.jp

児童生徒数：男子 1327 名 女子 596 名 合計 1923 名

児童・生徒の年齢 13 歳～18 歳

3. 実施活動（下記から選択し、ESDについては活動した分野に○をして下さい。）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
 持続発展教育 (ESD) (国際理解 世界遺産 平和・人権 環境 気候変動 生物多様性 エネルギー 防災 食育 伝統文化 そのほか (保健衛生))
 そのほか (異文化理解)

4. 活動概要

1年間の主な活動内容について簡単に記載願います（欄が足りなければ、添付

資料をつけていただいても構いません)。

◆地球規模の問題に対する国連システムの理解

・模擬国連活動

模擬国連活動には5年前から取り組みを始めた。模擬国連は生徒が一国の大使としての役割を持ち、国際問題の解決法を考え、また国連における議決の仕組みを学ぶ場である。毎年秋に行われる全日本高校模擬国連大会への参加を中心に、校内練習会や複数の学校が集まって行う合同練習会への参加や会議の運営を行っている。

本年度は校内練習会では原子力発電問題、合同練習会では核の平和利用、子ども兵の問題を議題として取り上げた。秋の全日本高校模擬国連大会ではエネルギー安全保障が議題であり、本校からは2組がそれぞれバングラデシュ大使、トルコ大使として参加した。エネルギー安全保障はどの国にとっても喫緊の問題である一方、自国の利益を守りつつ、国際社会の一員として他国との協調をはかる決議案を作成することが難しいテーマであった。2日間の議論の末、幸いにも2組とも自分たちが中心となって取りまとめた決議案が採択され、優秀賞、会議監督特別賞をいただくことができた。優秀賞を得たチームは日本代表団の一員として2012年5月に行われる全米高校模擬国連大会に派遣される。

◆持続発展教育 (ESD)

1) 保健衛生

Red Ribbon Festival の開催

Red Ribbon Festival は姉妹校である渋谷教育学園渋谷高等学校との共同プロジェクトとして開催した高校生による性感染症予防啓発イベントである。両校から2名ずつの代表が企画、運営を行い、約70名のスタッフが参加した。

発端は本校と渋谷高校の4名が6月にシンガポールで行われたTiltShift Summit 2011に参加したことに始まる。これは世界約20か国の高校生が一堂に会して貧困や食糧問題、保健衛生など地球規模の問題に目を向け、解決策について意見交換をし、さらに関連するプロジェクトを地元で行うプログラムである。この会議に参加した4名は性感染症が若者の間で広まっていることに危機感を持ち、各国の高校生と活発に意見を交わし、その成果を踏まえて10月に渋谷区でRed Ribbon Festival を開催した。以下に会を運営した生徒の言葉を引用する。

「私たちは性感染症が日本の若者の間で増え続けている現実と、その一因ともいえる日本における不十分な性教育に注目し、HIV/AIDS や STI (性感染症) に対する予防啓発イベントを開催することにした。この問題を、他人事では済まされない高校生同士で問題意識を共有したい、そしてフェスティバルという形で『楽しみながら』学ぶ場にしたいという二つの目標を掲げて、私たちの挑戦が始まった。会場の決定や資金の確保など、企画の段階からさまざまな壁に直面したが、アイデアを出し合って一つ一つ乗り越えていった。(中略)そして

10月2日、イベント当日を迎えた。7つのブースを設置し、ゲームや展示を通して来場者にHIV/AIDSなどの性感染症についての知識を伝えた。例えば、手作りのもぐらたたきゲームでは、一人の持ち時間は13秒。世界では13秒に一人がHIV/AIDSで亡くなるということを実感してもらった。(中略)このフェスティバルを機に性感染症に対する予防啓発運動が全国の高校生の間で広まってほしいと私たちは願っている。」

2)「できることからESD」(中学1年)

ESDという言葉は難しい響きを持つが、実は身近にあることを考えることから出発できる、という考え方にたち、本年度の中学1年が学年としての取り組みを行った。

学校や家庭で取り組むことのできるテーマを生徒一人一人が選び、その内容と取り組んでみて気づいたこと、これから広げていきたいことなどを記録する冊子『できることからESD』を配布し、生徒が記録をしていく。定期的に学級担任が目をとおし、コメントを加えて返却する。

たとえば、本校では中学1年で野田研修に出向くが、醤油の原料である大豆が採れなくなれば産業は成り立たない。また、中学2年では鎌倉、中学3年では奈良に研修旅行に出かけるが、その地に残されている文化財や伝統的な産業をどのように守ってきたのかを考えることにより、日本人としての知恵を学ぶことができる。

学校行事としての研修や日々の活動の中にもESDに関連することがたくさんあることを認識させ、自分の考えを広げてゆくことを目標としている。

文化祭では中学1年生は全クラスがESD関連のテーマについて調べたことを発表する取り組みを行った。

◆異文化理解・国際理解教育

例年のように中学3年でニュージーランド研修、高校1年でアメリカ研修、シンガポール研修、ベトナム研修、イギリス研修を行っている。また、ニュージーランド、シンガポール、北京からホームステイを含む来日生の受け入れを行っている。

第二外国語として中国語、フランス語、ドイツ語、スペイン語、ハンガルの講座を設けている(放課後)。

◆生徒会による募金等の社会貢献活動

本校生徒会は毎年文化祭で行われる飲食団体やボランティア団体の活動収益金を寄付している。2011年度は日本赤十字社に東日本大震災義捐金寄付を行った。

また生活委員会ではペットボトルキャップを途上国の子供のワクチン購入に充てる団体への支援活動としての「エコキャップ」活動を行った。整美委員会

以下につきましては、該当する取組を実施した場合のみ
記載をお願いします。

実施テーマにおける教材の工夫や授業手法における工夫。

本校では日常的に行っている活動の多くがユネスコスクールの理念に合致していると考えている。

実施テーマに関連した研究旅行の実施。

他国の学校との交流や相互協力の実施。(交流した国、学校名の記載もお願いします。特に相手校が ASP ネットワークに参加している場合は、その旨も記載願います。)

ニュージーランド研修，中国修学旅行，ホームステイ研修では現地において授業体験や学校交流を行っている。

国連やユネスコが取り組む国際的な記念日、国際年、国際的な10年を記念する取組の実施。(国際母語の日、国際天文年、識字の10年など)